

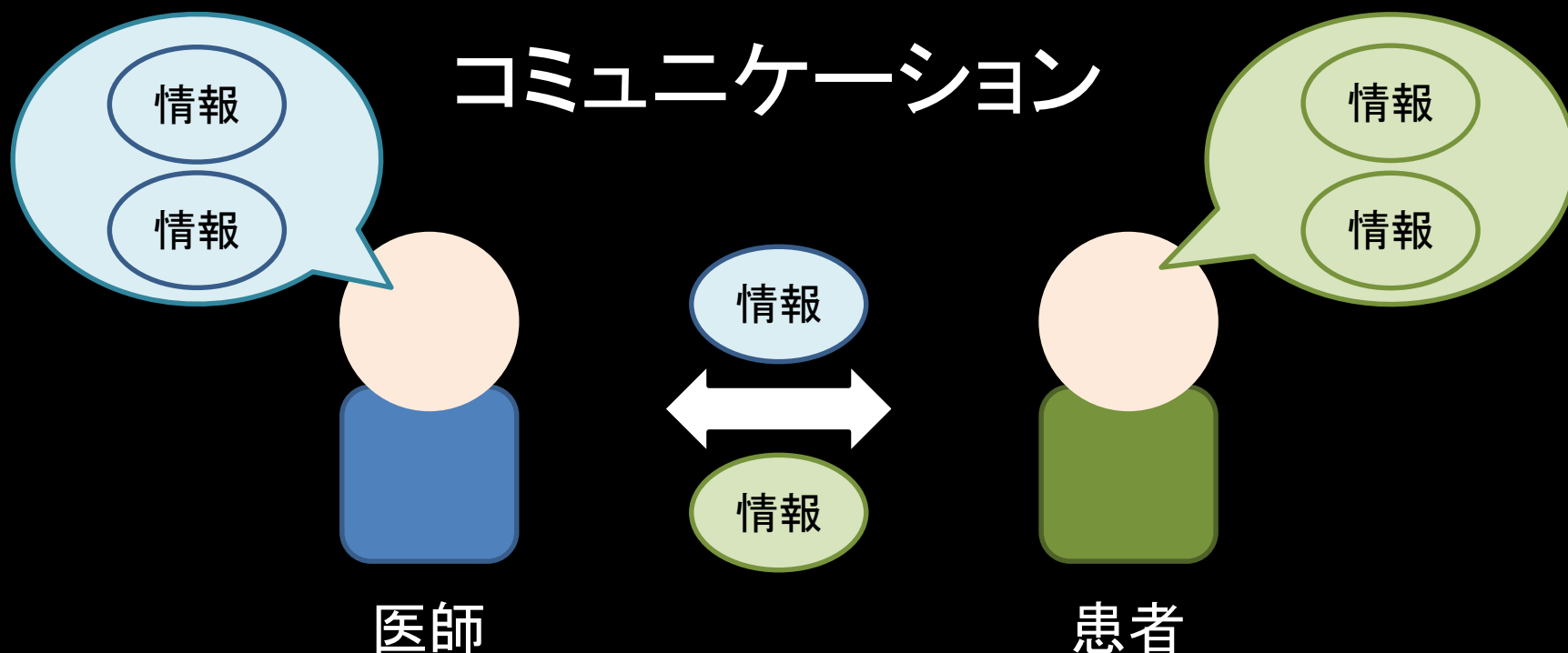
平成29年12月16日
於・健康医療開発機構シンポジウム

患者・家族と医療者をつなぐ 新たなコミュニケーション手法

京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻 博士後期課程
理学療法士

藤本 修平

医療者-患者のコミュニケーション



このような場面を想像してください



腓骨の骨折ですね

腓骨・・・骨折ですか・・・

安定しているのでリハビリしながら様子を見ましょう

(骨折で様子を見る・・・)手術は・・・

しなくて大丈夫ですよ

ミスコミュニケーションの原因

- ① 骨折で手術をしない？
- ② 骨折してるのにリハビリ！？
- ③ 骨折って手術しなくていいの！？
- ④ ……や()の中の気持ちを言えない

このような場面を想像してください

検査の結果、xxという病気でした

xx!? 治るんですか!?

AAという治療をすれば60%、BBという治療をすれば50%で治ります。副作用はAAが大きいです



どうすればいいんですか？

自分で決めてください(自分のことなんだから)

どのような改善点がありますか？

- ① 患者さん自身で決める能力があるか
確認する
- ② 患者さんの視点に立ち、選択肢を
投げっぱなしにしない
- ③ 「一緒に」決められるよう支援する

Shared decision making (SDM)

SDMに必要な4要素

- 少なくとも医療者と患者さんが関与する
- 両者が情報を共有する
- 両者が希望の治療について、合意を形成するステップをふむ
- 実施する治療についての合意に達する

(Charles et al, Soc Sci Med, 1997)

SDMの3ステップ

Choice Talk

選択の必要性について

- 問題の明確化
- 選択肢の存在と患者の希望を尊重することの妥当性
- 選択に対する患者の反応を確認
- 患者の理解を得られない場合は、詳細情報の延期も含めて検討

※希望: Preference

Option Talk

治療オプションの選択について

- 選択肢の提示と選択肢への理解を確認
- 患者の希望を特定する
- 選択を振り返り、再度理解を確認する

Decision Talk

最終的な意思決定

- 患者自身で意思決定を行い、重要な選択肢を挙げてもらう
- その他、希望があれば代替案も含めて検討する

(Elwyn et al, J Gen Intern Med, 2012を著者が改訂)



SDMの9ステップ

- 1: 意思決定の必要性を認識する
- 2: 意思決定過程において対等であることを認識する
- 3: すべての選択肢を同等のものとして記述する
- 4: 選択肢の良い点・悪い点の情報交換
- 5: 理解と期待の吟味
- 6: 希望 (preference) を特定すること
- 7: 選択肢と合意にむけて話し合う
- 8: 意思決定を共有する
- 9: アウトカムについて評価する時期を調整する

(Kriston et al, Patient Educ Couns, 2010を著者が翻訳)



医療者の多くは「希望」に 焦点を置いている

- 医療者の多くは、患者さんの希望を特定することに注意が向いています
- 希望は大事なのですが、「希望を表出できる」ということはすなわち前提として以下が重要です

(患者さんが)

提示された内容を理解している

提示された内容を吟味できる

患者さんの理解について

SDMに関するランダム化比較試験をレビューした結果、
患者さんの理解について記載されていたものは
(平成28年8月31日時点)

27%

(中山(監)、これから始める！シェアードディシジョンメイキング、医事新報社、2017)



SDMの適用

高い
リスク
低い

A領域

高いリスク、高い確実性

例：骨折をして救急搬送された
患者への手術

SDM: 適さない

C領域

低いリスク、高い確実性

例：腎盂腎炎に対する
抗生剤の投与

SDM: 適さない

B領域

高いリスク、低い確実性

例：乳がんに対する“乳房切除術”か
“乳房温存術＋放射線治療”

SDM: 適する

D領域

低いリスク、低い確実性

例：糖尿病患者に対する
食事・運動療法と生活指導

SDM: 適する

高い確実性(最良の選択肢が一つ)

不確実(2つ以上の選択肢あり)

(Whitney SN, et al. Ann Intern Med, 2004 一部改訂)



患者さんがSDMを知ること 何が変わるか？

- ❖ 自ら情報を得る文化へ
 - メモをとっていいですか？と聞ける
 - 時間をかけて医療者に聞ける
- ❖ 「自分が決めていいんだ」という意識をもてる
 - 「自分で決めなきゃいけないんだ」ではない

診療ガイドライン

診療上の重要度の高い医療行為について、エビデンスのシステマティックレビューとその総体評価、益と害のバランスなどを考慮し、最善の患者アウトカムを目指した**推奨**を提示することで、**患者と医療者の意思決定を支援する文書**。

(Minds, 診療ガイドライン作成の手引き, 2014)

意思決定を支援するツール
(Decision Aid)

患者用診療ガイドラインの紹介



まとめ

- ❖ SDMは、患者さんと医療者が協働して意思決定を行うコミュニケーション手法である
- ❖ SDMは、「選択肢を提示して、患者さんに選ばせること」ではない(ただの情報提示は×)
- ❖ 患者さんの希望のみならず、「理解」に配慮することが重要である
- ❖ 患者さんは遠慮せず医療者と対話してもよいということを認識する
- ❖ 診療ガイドラインはSDMを促進する役割を持つ可能性がある